

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みずのき吉野校		
○保護者評価実施期間	令和8年1月4日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年1月4日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様のペースに合わせ、「これならできる!」という小さな成功体験を大切にしています。	言葉だけでなく、絵や写真のカードを使って「次はこれをするよ」と視覚的に伝えることで、お子様が迷わず動けるようにしています。	室内だけでなく、お買い物や公園など、地域の中での活動を増やして、社会のルールを楽しく学べる機会を作ります。
2	スタッフが一人ひとりの気持ちに寄り添い、お子様が「ここに来るのが楽しい」と思える雰囲気作りをしています。	スタッフ同士で定期的話し合い、新しい支援の方法を勉強して、どのお子様にも質の高いサポートができるよう工夫しています。	お子様の「できるようになったこと」をわかりやすく記録に残し、成長のあとをハッキリと確認できるようにしていきます。
3	手洗いやお片付けなど、身の回りのことを「自分の力で」やり遂げる習慣がしっかり身についています。	遊びから学習へ、学習から片付けへ。タイマーや声かけを工夫して、お子様がストレスなく次の行動に移れるようにしています。	外遊びや室内での新しいレクリエーションを取り入れ、体もしっかり動かしながら、毎日をより安全に、より楽しく過ごせるように工夫していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の標準化(スタッフによる対応の差)について	スタッフ個々の経験や専門性に頼る部分が多く、対応や声掛けの内容に若干のばらつきが生じていることが課題です。熱意を持って取り組む反面、支援の「核」となる共通認識の共有が不十分な場面があり、お子様が担当者によって戸惑いを感じたり、保護者様への伝え方に差が出たりすることが要因であると考えています。	支援内容の「見える化」と「言語化」を徹底しています。定期的な事例検討会を通じて、成功事例だけでなく課題もチーム全体で共有し、誰が担当しても一貫した質の療育を提供できる体制を整えています。また、共通の支援マニュアルを作成・更新し、スタッフ間の専門知識の平準化を図ることで、組織全体でお子様の成長を支える力を高めています。
2	環境設定の細やかな配慮(感覚過敏や集中への対策)について	活動スペース全体の確保に注力するあまり、音や視覚情報の遮断など、個々の特性に応じた細やかな環境調整がまだ不十分な点があると感じています。賑やかな集団活動が刺激になりすぎてしまうお子様や、特定の視覚情報が気になって集中しにくいお子様に対し、物理的な仕切りや落ち着ける空間の提供が追いついていないことが課題です。	お子様が「今、何をすべきか」を直感的に理解できるよう、パーテーションの活用や視覚的な絵カードの配置を見直しています。一人ひとりの感覚特性をアセスメントし、安心感を持って活動に臨めるような視点を取り入れた環境づくりを推進しています。
3	地域・外部機関との連携強化(一貫した支援体制)について	事業所内での支援は充実していますが、学校や相談支援事業所、他の福祉サービスとのリアルタイムな情報共有が不足しがちです。お子様は場所によって異なる姿を見せることがあるため、当所だけの視点では生活全般を捉えきれず、一貫した支援目標を関係機関とすり合わせる機会が少ないことが、今後の大きな課題であると捉えています。	保護者様の同意に基づき、ICTツールや連絡帳を工夫して日々の様子を学校等と密に共有することで、家庭・学校・事業所が同じ歩幅で支援を行える体制を構築していきます。地域全体でお子様を見守るネットワークの要となれるよう、連携窓口としての機能を充実させていきます